

生誕100年  
ピアノの巨匠  
**エミール・ギレリスの芸術**

プログラム

今年は、ロシア出身で同郷のリヒテルと並ぶ20世紀を代表する巨匠ピアニストのひとり、エミール・ギレリスの生誕100年に当たります。今日はギレリスのライブ音源の中から選りすぐりの名演をお聴き頂くことにしました。

エミール・ギレリスは1916年10月19日、ウクライナのオデッサに生まれ、1985年10月14日、モスクワで70歳を目前にしてその生涯を閉じました。6歳からピアノを始め、13歳でデビュー。オデッサ音楽院からモスクワ音楽院へ進み、ハインリヒ・ネイガウスに師事。1938年、22歳でイザイ国際コンクール優勝。第二次大戦後は西側での活動を許された初の一流音楽家として認められ、1955年にはアメリカ・デビューを果たしました。我が国には1957年の初来日から1984年の最後の来日まで度々訪れ、素晴らしい演奏の数々を聴かせてくれました。

ギレリスの演奏は完璧なテクニックと骨太の男性的な力強い打鍵によって、一時期に「鋼鉄のタッチを持つピアニスト」と呼ばれていた事もありました。しかし歳を追うごとに“力”よりも“技”で聴かせるようになり、晩年は優れた技巧に支えられた詩情豊かな味わい深い演奏で、我々を魅了して行きました。

ギレリスのレパートリーは、スカルラッティやバッハ、ベートーヴェンやシューマン、ブラームス、さらにはドビュッシー、ストラヴィンスキー等、バロックから近代・現代の音楽まで幅広いレパートリーを持っていましたが、今日お聴きいただく演奏もギレリス一流の“技”が聴き取れる名演ぞろいです。 (中川)

\*\*\*\*\*

**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):**

**ピアノ・ソナタ第12番変イ長調op.26“葬送”～第1楽章から、第3、第4楽章**

エミール・ギレリス(P)

(1976.8.9 サルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

**ヨハネス・ブラームス (1833~1897):**

**ピアノ四重奏曲第1番ト短調op.25～第1楽章から、第4楽章**

エミール・ギレリス(P)/アマデウス弦楽四重奏団

(1975.9.2 ヘルシンキ、フィンランディア・ホールでのLive)

**ピアノ協奏曲第2番変ロ長調op.83～第1楽章から、第4楽章**

エミール・ギレリス(P)

リツカルド・ムーティ指揮フィルハーモニア管弦楽団

(1980.8.18 エジンバラ、アッシャー・ホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**イゴール・ストラヴィンスキー (1882~1971):**

**「ペトルーシュカ」からの3楽章～第1楽章、第3楽章**

エミール・ギレリス(P)

(1972.8.27 サルツブルク、モーツアルテウムでのLive)

**ロベルト・シューマン (1810~1856):**

**交響的練習曲op.13～抜粋**

エミール・ギレリス(P)

(1984.9.25 ロカルノ、聖フランチェスコ教会でのLive)

**ピョートル・チャイコフスキー (1840~1893):**

**ピアノ協奏曲第1番変ロ短調op.23～第1楽章、第3楽章**

エミール・ギレリス(P)

コリン・デイヴィス指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1980.4.17 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)